

真に闘う労働運動の構築にむけて 8・26労働学校に集ろう

反「連合」・反統一労働組懇

9・10全国労働者集会へ

労働「統一」問題は、今秋の総評解散を目前に重大局面を迎えている。各労組も大会シーズンを迎え「労働」問題は激的な議論の過程に入っている。

確かに既成の労働運動指導部は、この攻撃に屈し自ら総評を解散し「連合」のもとにヒザまづこうとしている。しかし、敵の狙いとは逆に、真に闘う労働者のための労働運動構築のたまたかも確実に生みだされてきているのが現状である。

自民党の危機
「連合」に拍車化!

「統一」という美名のもとに、実は支配階級とそれを買収された労働貴族によって加えられている戦後労働運動の分裂・解体攻撃が、今日の労働「統一」問題である。その最悪の先兵がJR総連革マル(鉄道労連)である。

わが動労千葉は分離・独立戦のその後の十年の試練を経て仲間意識と団結を堅持し、激動の荒海に乗り出し、新たな地平をめざして日々挑戦している。われわれのたまたかの意味と真価がいよいよ発揮されるときを迎えたといえるのである。

JR総連革マルの姿こそ「連合」の行きつく先であろう。

だが、こうしたやり方は決してスムーズに進行するはずがない。労働運動の原則を守り不屈に抵抗する人々や組織が存在する限り必ず歴史の逆流は突破・粉碎できる。

ところで、攻撃の中心を担っている自民党は、過去最大の支持基盤であった農民や中小小工業者からさえ見放されるという結党以来の破局にのたうちまわっている。この危機突破を「連合」に託しているのだ。

かうという鮮明な立場である。
働こう運動を強制する「連合」を打ち破ろう!

「日本(資本主義)の危機」を叫び、中国情勢を反動的に利用し反共宣伝かくりかえされ、現場では「労組」の名をもって「働こう運動」が持ち込まれ、出向や配転、首切り攻撃さえもけしかけられる。「障害者」や高齢者、病弱者等は「国家・企業のじゃま者」として、「切り捨てろ」というのだ。

秋から年末へ

総決起しよう

「連合」問題は労働者の現在と未来を決する重大課題だ。そうである以上、全組合員一人ひとりが学習、討論を通し、右翼的「統一」を許さないという揺るぎない主体性をしっかりと確立しなければならぬ。

8・26労働学校で学ぼう

4回講座 労働学校

(とき) 8月26日(土) 13時
(ところ) 労働者福祉センター (1階 研修室)

「連合路線」とは何か? — 何故われわれは、闘う労働運動を追求するのか —

<講師> 佐藤 芳夫 氏
(東京地域連帯労組委員長・全国交流センター呼びかけ人)

「交流センター」の先頭に

「全国交流センター」は、十一月総評解散、「連合」への吸収・合併という右翼労働統一攻撃にたいし、九月十日、目黒区民センターホールで「連合」・反統一労働組懇、全国労働者総決起集会を開催する。この呼びかけにこたえ、全力で結果しよう

日時 九月十日(日)午後二時開会
会場 目黒区中小企業センターホール (目黒区民センター内)
(目黒駅下車徒歩一〇分)

訂正・8月28日第2派公判の(前号) 場所は千葉地裁です。